

---

# 神と人と、獣と。

凜

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

神と人と、獣と。

### 【Nコード】

N0721Z

### 【作者名】

凜

### 【あらすじ】

1000年後の世界。獣と人が争う世界で、獣として生きるヒトがいた。

異世界召還ものです。生暖かい目で見守っていただければ幸いです。

## プロローグ(前書き)

初です！。

## プロローグ

世界を造った神様は、人間が嫌いでした。人間は神様の造ったモノを次々と壊して、人間以外の生き物はたくさん死にました。

神様は泣きました。長い間ずっとずっと、泣きました。それでも、人間が変わることはなかったのです。

神様は思いました。人間達に、気づかせなければ。

自分たちの咎を。

まだ西暦、といものがあつたころから数えて1000年。天変地異か神の怒りか、1つだった世界の大陸が2つに割れた。人間以外のすべての生き物が信じられない速度で進化を遂げ始め、獣は言葉を

操り、科学では証明できない力を使った。獣が都市や町を蹂躪し、植物の進化によって食料が得られなくなり、人間の人口は急激に減っていった。

しかし、それでも人間は滅びはしなかった。

残り少ない技術を駆使して獣を殺し、俗に「魔術」と呼ばれるそれを手にした。そして人間の知恵をもって獣以上の「魔術」の力を手にし、奪われかけていた「片割れの大陸」を取り戻した。

神様はまた泣きました。

人間達はまた、同じことを繰り返そうとしている。また、壊されてしまう。嫌だった。絶対にいやだった。人間にも生きていてほしいのに、人間は他が栄えるのを良しとしない。人間を止められるのは一体なんだろう。考えて考えて考えて。

神様が出した答えは、人間だった。

## プロローグ（後書き）

プロローグです。

始まりの日。(前書き)

主人公が出ます。

## 始まりの日。

夜の12時ごろ。なぜか全然眠れなくて外に散歩にでた。ド田舎であるここでは女1人で歩いててもまったく心配ない。

歩きながらぼーっと空を見上げていると、不意に霧が出てきた。さつきまで完全に晴れ渡っていたのに、おかしい。行っても戻っても、進んでいるのかすらわからない。

「なんなのよ・・・これ」

どうしようもなく突っ立っていると、突然強い風が吹いて、霧が晴れた。

「・・・・・・・・。。。」

見渡すと、半端じゃなく深い森だった。いくらド田舎でも、これはありえない。少なくとも近くにはなかったはず、ぐるぐる

と混乱していると、目の前に綺麗な女の人が見れた。

びっくりして口が塞がらないでいると、女の人がしゃべり始めた。

「よく来てくれました。咎を持たぬ人の子よ」

「咎……?」

「無垢で罪など欠片もないあなたに、私の世界を救ってほしいのです」

「ますます意味不明だ。世界を救う?この女の人?どういうことだろう……。」

「あなたは誰ですか?あと、世界とかって言うのもよくわかんないし……。」

女の方は、今にも泣きそうな顔をして、答えた。

「私はこの世界を造った、そうですね、神のようなものです。あなたは私がこっちの世界に召還しました。あなたに、獣と人の争いを止めてほしいのです」

「召還・・・？」

「召還の魔術はあなたが死ぬことで解けます。こちらでどれだけ過ごしても、死んでしまえば同じ時間の向こうに帰ることができます」

帰れる。しかも同じ状態で。

「私にできることなら・・・やってみます」

安心して安請け合いしてしまった自分をどれだけ後悔するか。このときはまだ、何も知らなかったのだ。

人でも獣でもない者 (前書き)

獣さんとうご対面です)

人でも獣でもない者。

「本当にありがとう。では、早速行ってきてくださいね」

「え？まだ聞いてないこととか

」

「ある程度のものは差し上げますので。」ご武運を祈ってますー」

神様？がひらひらと手を振るとまた霧が出てきて、あっという間に見えなくなってしまった。まさか・・・このまま放り出されるのか。

また強い風が吹いて、元の森に戻ったけれど、そこに神様はいなかった。何故か私が手に持っている緋色の着物？は神様が言っていた「ある程度のもの」のようだ。それに、なんだか体がおかしい気がする。とりあえずもらった着物を着て。膝上丈だった。この世界の服とかがどんなものか分からないし、脱ぐわけにもいかないんだけど。

ふっかふかの草の上を裸足で歩く。前の世界じゃこんなやつたことなかったなーと、またぼーっとしながら空を見ていると、

「・・・っ！人間だ！」

ん？人間って私のことだろうか・・・？てか人間だ！とか人は言わないはず。てことは・・・

「・・・獣？」

真横の茂みがびっくりしたようにがさつと揺れた。神様に獣と人の争いを止めて、といわれたのだから、人間を止めてほしい、ということだろう。つまりは獣さんとは仲良くならないといけないわけで。

「えーっと、何にもしないから出てきてくれないかな？」

「……人間、ここに何のようだ」

さっきの声とは違って低い女の人らしき声が帰ってきた。

「用、といわれれば……仲良くなりたいと言っか……？」

途端に殺気みたいなざわざわした空気が私に向けられた。これは完全に疑われちゃってる……。

「人間がよく使う汚い手だ。油断させて近づき、取り入ってから殺すのだ」

「っ！ちが」

否定などする暇もなく、茂みから私の体の2倍ぐらいある狼が飛び掛ってきた。

「じわぁっ!?!」

食べられる!と思ったはずなのに、体が自然と動いて飛び退っていた。

「・・・ほっ?」

額から汗がっつと落ちてったのが分かる。やばいです!これは完全に殺される方向で  
狼さんがまた飛び掛ってくる。それを紙一重でまたよける。

「だから仲良くなりたいたいだけで何もしませんっば!」

それでも狼さんはまったく聞いてないようで、止まない攻撃も、何故避けているのか分からないし怖すぎる!というわけで一か八か、狼さんが飛んでくる瞬間を見切って  
今!

「……なっ」

「おお……できた！」

狼さんをキャッチしてみた。それにしても近いと綺麗な目だなー、でも顔がめちゃくちゃ怖いです。狼さん。するとふう、とあきれた様に息を吐いてから、私の顔に狼さんが肉球をのせた。やばい、ぷにぷにすぎて気持ちよすぎる……！

「本当に攻撃はしてこないのかな……。武器も持っておらんようだし……」

「だから最初から」

「ヴォル、出てきてよいぞ」

ヴォル？ヴォルって誰だろう？と考えていると、さっきの茂みから小さな狼がでてきた。こっちの狼さんとおんなじの、綺麗な銀色の毛並みだった。

「お母さん・・・？」

小さな狼が不安そうにこつちを見ている。

「大丈夫だ。こいつが王が言っていた人でも獣でもない者だろう」

「人でも獣でもない者？」

「お前が、神が争いを止めるために連れて来た咎のない人間だろう？」

そういえば・・・無垢で罪のない、とか言われたような。神様はきっと人間を止める人間がほしかったんだらうと勝手に解釈してるけど。

「うん・・・たぶんそうだと思う」

一瞬目を伏せてから、狼さんが歩き出した。

「ついて来い。王の所へ案内する」

こうして殺されかけたりしながらも、王様に会えることになったの  
でした。

人でも獣でもない者 (後書き)

次回王様とご対面です

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0721z/>

---

神と人と、獣と。

2011年12月3日13時58分発行